

特集

症例から考える 重症外傷診療 あなたならどうする!?

外傷初期診療の指針として『外傷初期診療ガイドライン JATEC™』が誕生したのは2002年のこと。それに引き続いて病院前の JPTEC や看護領域の JNTEC, 専門診療のための JETEC が生み出され、日本の外傷診療は大きく前進してきました。

このようにスタンダードとしての診療指針が構築されていく一方で、現実には、日常遭遇する重症の外傷患者に対してどのように立ち向かうべきか。その局面局面において思い悩み、判断の背景となり得る確固たるエビデンスも乏しいなかで、目の前の患者を救うために許される時間はほとんど残されていない…そのような緊張感が外傷診療の怖いところであり、課題であり、また面白いところでもあると考えます。

そこで今号の特集では、重症外傷患者を目の前にしてどのように対応すべきなのか、実際に現場でどのように対応しているのかを各執筆の先生方に伺っています。そして、①この外傷患者は重症か否か、②出血性ショックに対する輸液・輸血戦略をどうするか、③重症腹部外傷のショックにどのように対応するか、という状況別に3つの症例を掲示して、それに応じたテーマごとに論述いただく構成としました。各テーマにおける最新のエビデンスや執筆者自身の経験・考え方をふまえながら、掲示症例を目の前にした場合に現場でどのように立ち向かうのか、各施設での臨床に即してご解説いただいています。

さらに、上記のような日常診療における外傷診療のテーマからは少し離れて、日本では経験することの少ない外傷である銃創や爆傷に対する実際の診療、ならびに今後の教育・修練のあり方についても取り上げることで、より包括的・俯瞰的な内容を目指しました。

本特集が外傷診療現場の緊張感を伝える珠玉の“短編集”となり、外傷診療に携わる救急医の先生方の明日の診療に役立ち、また将来を考えるきっかけになることを期待しております。